

学術論文	・論文（査読のあるもの。学会などの抄録などは除く） ・本学学生が著者に含まれているものは赤字で記載 ・2007 年以降（個別）と以前（2006 年までの合計）を分けて記載
(論文)	
1	K.Sakamoto, Y.Imanishi, T.Tomita, M.Shimoda, K.Kameyama, K.Shibata, <u>N.Sakai</u> , H.Ozawa, S.Shigetomi, R.Fujii, M.Fujii, K.Ogawa. Overexpression of SIP1 and downregulation of E-cadherin predict delayed neck metastasis in stage I/II oral tongue squamous cell carcinoma after partial glossectomy. Ann Surg Oncol., 19(2), 612-9, 2012.
2	Y.Fujiwara, H.Tsuchiya, <u>N.Sakai</u> , K.Shibata, A.Fujimura, TA.Koshimizu. Proximal tubules and podocytes are toxicity targets of bucillamine in a mouse model of drug-induced kidney injury. Eur J Pharmacol., 670(1), 208-15, 2011
3	TA.Koshimizu, Y.Fujiwara, <u>N.Sakai</u> , K.Shibata, H.Tsuchiya. Oxytocin stimulates expression of a noncoding RNA tumor marker in a human neuroblastoma cell line. Life Sci., 86(11-12), 455-60, 2010.
	2006 年以前 16 報

著書	著書（2007 年以降（個別）と以前（2006 年までの合計）を分けて記載。）
(著書)	なし

学会発表等	・ 2007 年以降における招待講演演者やシンポジスト ・ 2007 年以降における国際学会（国内外での開催を問わない）のうち<u>発表者</u>であるもの（共同研究者の場合は除く） ・ 2007 年以降における<u>本学学生</u>が<u>発表者</u>となっている学会発表（学生が共同研究者の場合は除く）
（招待講演）	なし
（シンポジスト）	なし
（国際学会）	なし
（学生発表）	なし

助成金・特許	・2007 年以降に交付された競争的資金（研究助成金の名称と種別、課題、交付年度、代表者・分担者の別） ・2007 年以降の特許
(競争的資金)	
1	日本学術振興会 科学研究費基盤研究 (C)「分子シャペロンによる新規癌抑制因子 WW45 の機能制御」平成 23 年～平成 26 年 代表
2	日本学術振興会 科学研究費基盤研究 (C)「アルギニンメチル化酵素による癌抑制因子 RASSF1A の機能制御」平成 23 年～平成 26 年 分担研究者
3	科学技術振興機構 サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト (SPP) 細胞を筋肉に分化させよう、平成 24 年度、代表
4	科学技術振興機構 サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト (SPP) E S 細胞を心筋に分化させよう、平成 25 年度、代表
5	科学技術振興機構 サイエンス・パートナーシップ・プロジェクト (SPP) 細胞の初期化、万能細胞とは何か？、平成 26 年度、代表
6	日本学術振興会 ひらめきときめきサイエンス がんとは何か？ がんの正体を探しにいこう！、平成 26 年度、代表
7	姫路市産学協同研究 訪問薬剤師のための医療情報システムの開発、平成 24 年度、分担
(特許)	なし

社会活動	2007 年以降の社会における活動等（学会や公的機関の委員や役職など。ただし、学内や学園内の委員・役職などは除く） 2007 年以降のその他の社会活動（教育機関や公的機関における講演依頼など）
(社会活動)	日本薬理学会評議員

賞	2007 年以降に受賞した賞
	なし